

「カジノに税金は1円も使わない」 はず。公約違反では？

前例のない「土地関連費用の大阪市負担」という契約

大阪府は長年「夢洲は液化化しない」と説明してきましたが、MGMオリックスが「液化化する」と言ったとたん、松井市長は「液化化危険度が高いと認めないと話が成り立たない」として、追加調査もせず、大阪市の負担で対策すると決めました。液化化や土壤汚染対策費などの「土地関連費用」は、これまで全て事業者が負担しており、まさに「寝耳に水」。MGMオリックスは、夢洲が「洪積層まで沈下」する「極めてまれな地盤条件」で地盤沈下&液化化対策は「技術的にも未知」として、大阪府に負担を求めています。技術が未知と

いうことは「費用も未知」ということ。

当初の計画通り、商業地ではなく「物流拠点の拡充」であればこのような費用はかかりません。万博・IRのための「夢洲造成費用」は、2021年度以降で2,482億円を予定。これは大阪府民一人当たり9万円、大阪府年間税収約7,500億円の1/3。ここに「技術的にも未知」な対策費用が加わる、まさに「一世一代の賭け」です。

※関西国際空港でも、当初沈まないと言われていた「洪積層」が沈下。想定外のペースで沈下が進んでいます。

異例の長期契約

海外ではマカオのライセンスも20年から10年と厳しくなったばかり。大阪IRは35年契約のうえ、35年後「事業の継続を前提に」30年の延長を協議することになっており、実質65年のライセンスという異例の長期契約になります。



大阪IR関連追加経費…… **55億円/年** (大阪府・市想定)

大阪IRの運営のために、**学校給食費の無償化※と同程度の予算が毎年必要になります。**

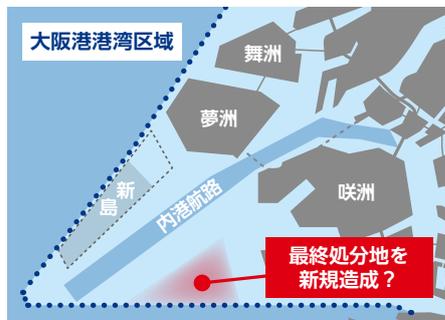
※約60億円、大阪府R3年度予算



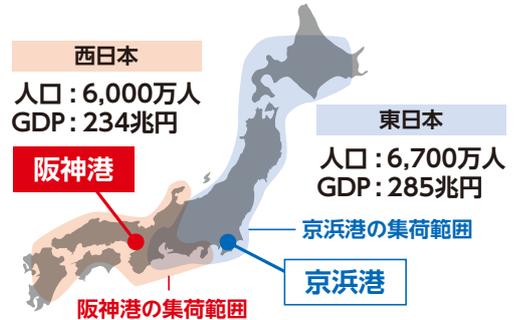
会場地・夢洲が「負の遺産」って本当？

夢洲は現在埋め立ての途中で、現役の「最終処分地」です。埋め立てが完了した土地は、国際コンテナ戦略港湾として、**関西の物流の中心拠点となっています。**むしろ近年ではヤードの面積不足でコンテナを高積みしており、コンテナの仕分けが非効率になったり、周辺道路は渋滞、海も沖待ちが発生しています。**決して負の遺産などではありません。**

すでに大阪港港湾区域内に空きスペースは残り少ない状況です。夢洲と新島が埋まってしまえば、残る埋立可能な海は一か所。数千億円かけて新たな「最終処分地」を作らなくてはなりません。



すでに大阪港港湾区域内に空きスペースは残り少ない状況です。夢洲と新島が埋まってしまえば、残る埋立可能な海は一か所。数千億円かけて新たな「最終処分地」を作らなくてはなりません。



議員に意見を聞いてみよう!

選挙区の議員など、お近くの府・市会議員に、「大阪IRについてどう思うか?」とぜひ聞いてみてください。

大阪・市民交流会に参加しませんか?

理念や支持政党を越えて、市民が結集した緩やかな集まりという非常にユニークな市民団体です。どうぞ、一緒に「多くの人が住みやすい大阪の実現」に向けて、輪を広げましょう。詳しくはQRコードから!

このチラシに関するお問い合わせは



info@osaka-onecity.com

